

文恭院實紀

三十八

庫	文	閣	内
三二函	一四架	三五六四號	和書類

庫	文	閣	内
四九函	一五架	三三〇二四號	和書類

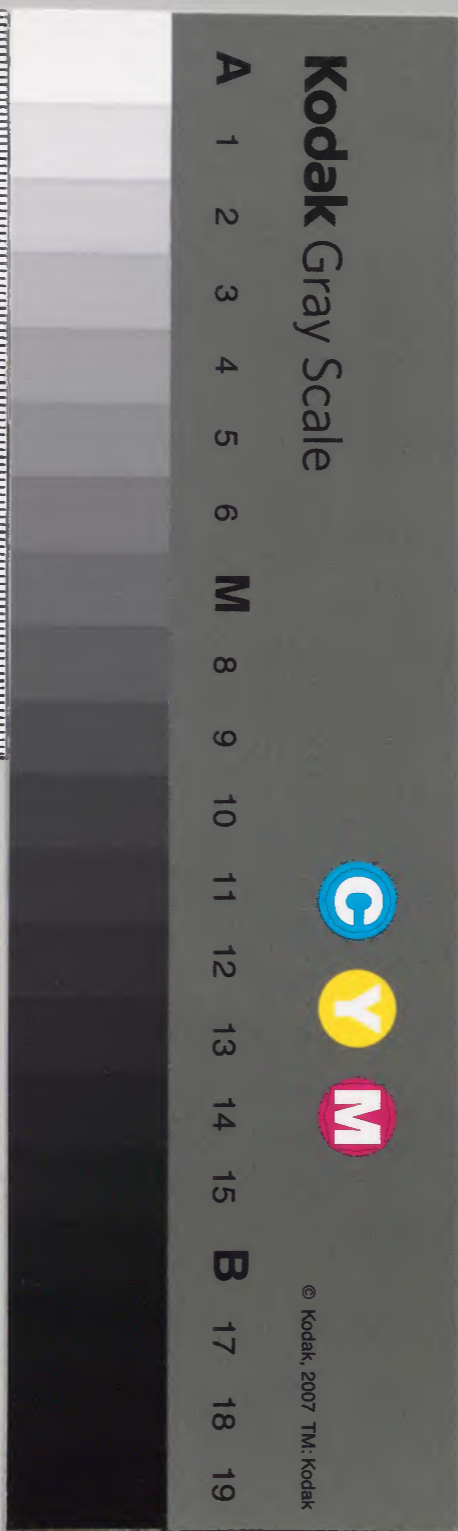
内閣文庫	
番號	和 36064
冊數	55 (38)
函號	149 36

文化二年乙丑

自六月至十二月

正月ヨリ六月廿三日迄

史六〇



文恭院實紀

三十八

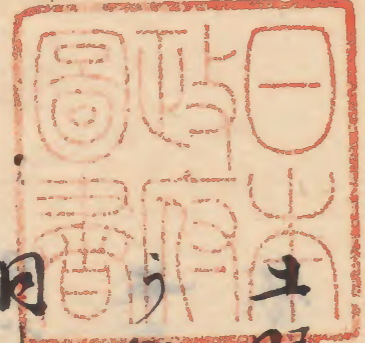
文化二年乙丑 後六月
至十二月

五月ヨリ六月廿三日マテ

文恭院實紀

二十八

文出二平山 至十二日 廿六日



文恭院殿實紀卷二十八

文化二年六月十四日抄り
二月小終る

六月廿四日赤嵐山

孝恭院殿書局小次老堀田栲津守正教代奉法

土形平一入り一かを三家のかき一使一てり一

うかにはふ溜詰高家祓前奏書番ほう紙あり

日一くは起居せ供一なる

亦六日^五捕一子れ以祝一三時振多まつし三

家のかき一は一免万石以上のともひふ内書を

賜ふ西城より同日一々奉書を下さふ大番相太
左京西京辨業左三郎一尚高おれ一子路おれ
日門より無者増上寺生屯熟瓜を献ふ

廿八日西城目付長田六左衛門繁昌先手派々
外より流士吉松河左衛門西弘安守居番とある

七月朔日月次の賀儀の事一松平下強守
就封の事とあるたは能く賜ふ酒井大和守

文政五年并一信濃守直方、板城加番以て由下

三禮賜物規の如し松平越中守子太郎一丸

初尺一多うゆつ系大番既在江守道旨

浅野中務少輔長富坂城主慶の暇多ゆふと既

番士も同し

二日日光門主使一不忠池の新達藉一籠

さゆしとてあふ為國上山城主松平大城守

信重卒一以嗣子おれ一と請ふゆふ松平越後守

康人弟順丸後部四郎信立を長子と一送銀言石

をほろしむるに信電ハ所以下欠文

三日西城先手所松平源兵衛宗子左源太左理

は一之父母一々家内々々の七人志願三郎五山

小使一々異業を問ひせし終務重おくるせ

らる

四日七夕の夜祝ニ一々日光門主使一々二程

一奉をほりしせらる

五日上野國伊勢崎領主酒井駿河守忠誓病に

より請ふ由に致仕候所銀二万石多々宗子

より節中寧小治川むす終以下欠文

小姓花村忠号周西彬山駒左と新川山駒左松平

旁助近美西城小うつめ

六日七夕の夜祝一々三家の如し一は一之

例の如きかきより使一々結料多々ほつめ

七日七夕の夜祝祝の如し

二十日書其為有馬 左兵衛佐譽純して増上寺方又
小附飯十白銀二百枚を贈るせし事

十六日宗對馬守 朝鮮一信使の事より彼

國より往來は不可来久しうなり又對馬國より

来聘せし者より特旨にて金二万兩を恩賜せし事十人の物居

松平守右衛門康能病を重く莫死形を申し

こゝ

十七日卯谷山 卯谷山に於て卯谷山に於て

所宜し青山山下野守忠務代為治

十八日松平越後守 病に犯されしに於て其

番堀内藤治左衛門に於て小姓長坂村母

信家位士族に於て頼母信家血鎧九郎に

改稱 信家年記

二十日番醫四品忠実信奥詰医より

廿二日松平越後守 卒しやいかに其子信三郎

其子に其子番守野守政守忠頼使して者銀

二十段をくらせし

十四日 赤坂山

孝養院殿 幸廓に少老系極偏中旨高久代奉
以西城小姓組番取本多 因幅留止原小姓組番取
より甲府番番支配流川少相旨利満、西城
小姓組番取より使番村越七郎左衛門 受取
西城目付とれり
十五日 寄舎大草殘部 高般養子主膳高每を

一先父母仕して子家侍く、その十八人 西城小十人
一場彦右衛門 政許老免、小善徳小入り 襖室
を賜ふ

亦六日 大妻中根次郎右衛門 正庸老免、
小善徳小入り 襖室を賜ふ

廿八日 月次のお宿の、
一先系親の、
四人 江井、
修理大夫、
家盛

杉田元伯、
河原加茂宗玄、
西良仲

と死し家業出精少くお福きし久しふ牛山
濱松守 若中善晴守 兼衣継目を御
奉りてせ死し東巻を家し奉ふ
八月朔日當日の賀儀致し奉りし
三日使兼天野権十郎権行子権五郎
はし久安承し久しくその三人百人の所相正
信之允定能甲府勤皇又配り外も法義より西城
新着ふ入ぬその八人

四日細尾弘法境里古左衛門是昇天守兼
の所せしふ
六日松平加後守 とうせし かね子孫^孫孫^孫孫^孫
所をとに美共兼小笠原近江守貞温使し香
資銀三十枚せしし
八日赤坂山
後醍醐院教音殿の取留備者守正精代者以後同
の所張所甚所の与所吉田御左衛門 同日し

是等の話とある

九日濱尾危國の成りせしむに物敷をむく為倉
外より此日水部より御録を御達せしむ

十日三孫山

淳信院殿高直殿の御下野守正統代名は古
りし此日以成のせしむ村一富士一人時辰を

賜ふ

十一日紀伊安芸門尾及羽林の御鷹の雲雀

せしむせしむ

十四日細戸安黒田小平太為正統代名は古

十五日月次のお例此より村一右子御監

は一之為親のその七人上坂山城守頼布は一之

就書のことゆゑ万のゆゑの八人長崎守り成瀬

因幡守正統賜物高知にて起任のことゆゑ此目付

甚しき四部景音劫定次味夜村垣左太史宅行

ハ松島西坂夷地の事叙せしむ此賜物何れも暇

多下不使番多丹下繁文書院番小出主後
冠考大坂目付小下、能をの、い、向下、中、大
小姓池井大内記出求、百人組の法、と、向、この日
外戸中羽の、の、一、重、雀、を、法、の、又、松、平、加、賀、也
齊、廣、を、一、之、八、人、一、使、番、一、之、同、一、之、下、さ、は
十六日使番せし、重、雀、を、賜、ふ、之、松、平、上、總、介
高、及、文、致、仁、治、政、入、道、一、心、齋、を、和、之、十、二、人
十七日、羽、山

市宮小牧野備後守忠精代系法
十八日宿老一重、雀、を、奥、山、之、下、さ、は、公、是、也
二十日東叡山
心觀院殿、重、開、所、小、土、井、大、次、法、利、厚、代、系、法
廿一日大藏院、内、後、甲、斐、守、西、紀、後、府、城、代、と
外、也
廿三日小普請、小、野、寺、侍、十、五、次、男、新、次、取、所
罪、あ、り、死、小、處、を、之、所、能、地、連、及、の、之、の、多、一

命を以て終末撰と改む安永三年七月二十八日
寺社紀事行を以て同一年四月十九日大坂延
城代とあり四位小叙に意改四年八月十九日老臣
等の驛書より京都所司代とあり侍從小任し
同日十年十一月六日病小和を以て病免常班小
列を文化二年の七月十二日六十一歳より終を
より以て西城小姓領慶長山田領改守利往小
姓領番頭とあり百人領の所相平式初出尋に西城

小姓領番頭とあり

閏八月朔日月次の契傍のふりし相平彈正忠

小笠原信濃守 在多大和守 在多大政加藤

はる、う、り、獨、以、黒川豊前守 在の就親

こと以賜を以てその二人使番小笠原政之進直信

ハ駿府目付より、終より、は下さる駿府城代

内藤甲斐守正頼任に赴くより、さきくの時、

小金子^{五百} 在恩侯あり大妻所細川長門守

正興高木主水西剛板城より左邊をて、脱字の目し
与次番士も同一

三日一橋門外田地不成りて、給以て奉養二

投賜以て^給籠より番街葉園法通行あり留守居

慶矢橋邊江守良金子熊之血 先年沃瀬石名

傳右衛門貞刻養子鏡之血 壽合井出半三郎

政孝子琳五郎政安西城小彌戸玉田中四郎盛幸

養子平三郎 はりの父死して家はくまの十四人

六日美作國津山城主松平越後守康人請置し

向く小養子悟三郎克孝小遣領五萬石ありて

小姓下久文

八日東叡山

後陽院殿立上郎小戸四采女正教氏代各に奏其養

水聖左近將監立新病より奏其の事免されり

后間班と形河小善清より小姓組小入並其の十八人

西城小姓組小入並其の九人

九日高家官原長門守義隆孫仙之五 於多仁
免一出さ終る高家兄智命を祿五百石せ
下さふ

十日小普請設某吉之由能得表右字より
十二日三塚山

博信院殿臺座小牧聖備前守忠精代案次清水
菊慶支配市岡丹後守房仲の御旗奉行より
中興小姓杉平因幡守康盛の百人組の沃より

先年法小野安藝守由義の清水菊慶支配より
於五

十三日小普請在郷丹後守泰行より堀川右衛門督
富匡の御方より御子降進より御
としより法より

十五日月次の賀儀のより一松平甲斐守
参親は少室原信濃守 本多大和守 就親
御眼多角小松平信三郎 堀田お摸守山時持物

一ノ家は寺にせしめし見へ多し海の家は信三郎
お摺当家士等目一々持て奉り木下宅太郎
養子末子郎一初見一多し海の家交代亭令
溝口辰蔵直静一六番詰とある

十七日死葉山

所官小牧野備前守忠精代系次西城目付松浦
精右衛門忠先在頭とある

十九日一紀小田安部一少く男清子出生ありふ

七夜の御祝と一々

所所少少名進々々々益子代殿と稱とある

戸田采女の氏名は使し出生のつゝ一お摺國編唐

の所口美濃玉吉定^真のつゝ一々一白銀二十枚二種子正

右衛門督高匡卿小白銀二十枚二種子正おありし

此のうゝに是物五丁種子正を贈るをう取回し此の

かゝ一是物二種子正又西城より一安藤孫右衛門

信成に使して益子代殿へ感念のつゝ一々一白銀

二十枚三種色紙 右同門督高匠郷（二十枚二種
色紙目一紙の方）墨物五一種色紙以候の目一紙
あり

中巻所より巻代殿（百より二十枚二種色紙高匠
郷二十枚三種色紙此の方）墨物五一種色紙右同
門督より墨物家士より

序所一巻物五一種色紙
大納言殿

巻のうち一巻物五一種色紙は、此の方より
序所

大納言殿

巻のうち一巻物五一種色紙は、あり

廿二日久世大和守 就書の際下より西城山姓紙

巻所格押田中後守孫融養子哉三郎 一摺郎

家司飯田能登守易信養子大次郎

序所^墨以用人丸毛紀前守政良孫若之進 西城

月日大河内善十良政良子八百八
法士防長坂
血鏡九郎信義子彦平郎
新子流杉山友之血
西久養子大之を
まのそ能他初見のもの
多し

廿三日

大細多殿茂子の事と一殿とせふは此日大坂
寺多の猶屋左衛門成庸後園の妻の跡命
さるは小普請より徳物方小の事一人又小細戸

根栗内膳

本多善太郎吉堅病免

廿四日赤坂山

孝為院殿喜廟小少老杉平能登守兼係代為

廿五日赤坂山

後明院殿序宮塔西正座小少喜廟小吉山下西守

正祐代為

廿六日

後明院殿正正座修養少少收野備守正祐代為

信戸田末女正氏教申使し施物より日光門主

小銀二百枚を之よりせき進儀申し玉銀子を下さる

廿七日小細戸神保新不在信門病あり奥務を

ゆふさ日

廿八日奥右筆久智ふ石川高言印政元西城奥右

筆と水海

廿九日番醫田中俊庵玄釣日光門主登山のせり

添く由り系つくと命をうけ

九月朔日月次の賀儀の志し招奉記後書 家

はきしを御しつて後國重行の刃馬是物白銀

を多しつつかう見一多しつつかう家士とてお留

は多中務大補 希親は磯田左衛門佐

寄倉花房敷馬磯陽松平晴三郎 小駭城加慶

の事命を御暇申し施物言少目一喜在左は将監

養子友之丞 片一免す久し多しつつかう馬領

御訪訪方右衛門定昨ハ

大納言殿以馬淑姫君御用人福村理太夫山慰之
以馬の山泉手を命さうは青合松平孫太夫初満西殿
目付さぬ

二日重陽の夜に三家のかきしをいぬ石
以上のまゝかきし供しし時彼を多きほつふ
大納言殿に七おかし日光門主と登山宗より高家
官原長門守義深所供しし蒲萄一籠をさうせ
らふ

三日王子のあし

両所取成さうは以奉に騎七羽形より高家高田
信濃守長極子鞠負 山姓強番院阿部志磨守
西幸長子秋十郎 守倉春田格左衛門利茶
子専務直徳の父死し家はくその十一人
四日重陽の夜に日光門主供しし二籠一序
せほしきうはまの門主登山山よりさうはさ
以對面ありし後養さうは初日初瀬山池坊塔中

金蓮院精運河州通法寺後住命

五日

多事有以上之危國歲之長能其能少一橋能因
の多即山過ききき成の牌山這河外又犯前
唐澤城之水野左に將監止昇用之致任は所領
六万石ハ其能子或於少福 小強一玉其能 以下闕文

備中國是守領主本下空右取利繼痛少少移任

所領二万又子石ハ其能養子東太其 少法可一玉

少能利微ハ 以下闕文

七日小善請少少納戸番とある中の一入

八日東廠山

後西院殿堂廊少少諸あり少少中實塔を以て受き
少少山の

嚴有院殿堂廊ハ土井大炊政利厚代為は高家

产田伯後守氏倚日光山

寺官代者使法并建殿所

祭祀の事行命を

ら新賜物有るいと下さる

九日菊節於此祝賀のころし西城十人既久留

源三郎正邦より橋の間行り看老福人のせり

心法かほ小祈かきりさかめり終る所をせり

めりる

十日赤坂山

常憲院殿重慶小产田末女正氏教代者以

十一日駒場野一放鷹とせり

亭所成りきりふり物教勢或相替はりふ

大綱寺殿小同一所より出遊何り

萬年記

十二日三郎山

博信院殿重慶小正井大炊法利厚代者以りるふ山

文昭院殿

有章院殿

博信院殿雲之廟燈築切外より西に座敷あり戸田
東女正氏教代系以

十三日 紅雲山

雲之廟正座産供養より土井大炊政利厚代系以

十四日 三郎山

文昭院殿雲之廟小戸田東女正氏教代系以

清揚院殿雲之廟小奏共奉水御寺政守忠能代系以

紅雲山

文昭院殿
有章院殿

博信院殿雲之廟正座産供養より土井大炊政利厚代系以
堀田豊前守正教より増上寺方又一施物小白銀
五十枚ツの傍中一銀子を下さる時之趣又小紙
おとりのりき多由ひ一よりふ己の下刺ツカフに
法小少くれりき多由ひぬふ

享保十八の乙子より享和三年八月朔日生終

十日多きふ、母をたてふのう、田に十日新日
ま色車に十日新日、母をたてふのう、三歳行
逝きう、控し、あり

十五日、と、く、病痛の、あ、や、く、よ、く、は、表、山、出
多き、は、家、の、か、く、ま、め、月、次、出、任、の、と、ま、か、る、高、元
小、福、く、退、く、甲、府、新、屋、支、所、松、平、信、之、元、出、任、日
光、寺、新、山、石、跡、立、間、久、切、浦、其、ま、り、海、井、山、江、守
忠、頼、と、ま、に、赴、任、の、暇、下、り、礼、賜、物、あり、念、入、於、ま、り

河洞のせしむき、高元、ふ、礼、せ、傳、(を、ま、く、教、習、き、)の
ら、控、信、之、元、出、任、ハ、伊、豫、守、跡、立、間、久、切、ハ、大、和、守、と
何、も、多、む、この、日、時、立、出、る、天、淵、院、殿、と、禮、し、奉、承
十六日、天、淵、院、殿、に、送、禮、を、奉、獻、山、凌、雲、院、に、送、り
ま、り、は、

十七日、和、原、山
河、原、小、治、詣、り、は、り、し、く、少、く、病、痛、癒、り、し、り
土、井、大、信、院、利、原、代、奉、は、將、所、備、前、守、中、精、ハ、和、原、山

靈廟修築費督の事、幸りしふまゝ、所収を賜ふ
十八日三家のかき、使し、物さひ、口切茶を
多す、由つゝ、能日、大番、与、所、松、字、市、三、郎、西、吉、大、番
大久保、熊、子、郎、中、括、身、の、形、ひ、よ、ろ、く、く、さ、ふ、せ、そ、て、小
普、清、小、の、り、は、あ、せ、と、久、し、は
十九日、小、普、清、の、案、取、扱、ふ、小、平、保、忠、大、坂、金、を、切、と
形、向、

二十日、赤、坂、山

大猷院殿

有、法、院、殿、靈、廟、の、牧、野、信、安、守、其、精、代、名、以、留、守、居、
番、高、藤、長、八、郎、總、良、の、西、城、先、手、活、と、ふ、り、西、城、先、
手、活、取、理、大、学、成、出、の、中、錢、幸、形、と、ふ、り、西、城、目、付、
細、井、豊、前、守、正、房、の、留、守、居、兼、と、形、取、扱、は、以、手、代、
手、祖、母、の、ふ、り、と、ふ、り、
所、書、所、の、以、以、養、方、形、以、伯、母、に、あ、り、と、さ、り、走、り、
手、り、喪、の、形、と、さ、り、は、
萬年記

廿一日 忍草山

伊豆

雲廊の法諸あり高家戸田傳後与氏傳の系記の事あり

海井總殿防 日光山より之の福次

廿三日 傳通院

清泰院の方 水戸中納言板房の法女 大猷院殿の御養女加美少将光高室 の百本

十四日 法舎あり少奉考多水野寺及び中館

代系法あり一事あり 杉本加賀守多彦房より記あり

謝り事なし

廿四日 忍草山

台徳院殿雲廊の土井大猷防利厚代考一 東嶽山

孝考院殿雲廊の少老志極傳中宮高久代系は

日光門主帰寺阿うに之より高家今川丹後守

義彰の使より慰勞さる

廿五日 廣の庭園の取らざる所を齋を放多能徳

鳥若干摺投あり日光門主帰寺阿うに之より使

いりまゝ一匣を多すつゝふ若國庄内城主
酒井左衛門尉 病少き致仕の請をゆふに
所領十四万七千石餘の子孫津守 山越くむ

不承 以下開文

廿六日日光門主傳寺のうのまう持ふくき饗きり終
くは對面あり小畑戸高井山坪山宮徳西城月日と
外少勘宅組防松山惣右衛門直義ありく冷味後と

外系 以下開文

廿七日松平加賀守高廣使とく口切原を多すゆつ
ふ小石川茶園監芥川小野寺元珍老免して褒銀
あり子同し磯元智ふ長春元智父の原殿命せ

外系 以下開文

廿八日去々し廿五日以来のせり多射し番士二人
時旅を下さふに終日 以下開文
外系 以下開文

大納言殿(内側) 正高若狭守長久保一三郎
めん二様一命をさくふり素讀通さく様一に
すうす外少

廿九日日門一本月以祈禱料とて銀百枚を
さくさくふり使の高取大洋下總与基奉外少

晦日三孤山

有章院殿雲雲廟より西来女山氏教代奉後

十月朔日月次の日候のさくさくし様お授与

以上之奉親のまの三人海井左馬門尉 水野

式部少輔 藤封を禱とをの馬一巨給共

金也多さるる見つ多てまのふ左馬門尉

う家士式部少輔 う家士お借以柳生但馬守

三 養子名河部 初見以高野学侶方悉地院

同一学侶方悉地院在番代を禱一阿別園法寺

住職を禱一とふ未巻を就以使番取中少大夫

直諫少姓組柳原年之助中之大坂目付はく

四日三郎山

二日大川の舟より一乗をり向筑前田安郡別

墅小て舟橋を幸ふ以奉鴨鴨等あり

三日駿府城代安藤伊孫守直久孫將曹

少姓胆者防溝口お掬守直舊子西城少姓少孫

直道旅奉行太田駿河守資信子長十郎次郎

壽合安於主孫信吉子千景信編元丸留守居

山本磯初孫明子安三郎

家はくその十不人

四日三郎山

貞恭院殿 紅伊大綱云
活真卿藤中 十三回高取あり能法合紀伊

中綱云活寶々執行ツキと高くにしり中綱云活寶卿

のそくに青山山下四守虫裾以使しり香銀三丁取

を贈るきりぬ

巻のうへより目一 貞教詳
ありは

不日此被居の以祝しり高家詰り奉る高家

の士多能他於中なる席に居りて保法を下さる
奥^能ぬるの以遊あり

八日赤敷山

後明院殿三層廊下青山下郷守正祐代者十三郎山
貞孝院殿の法會結願あり上井方竹路利厚
代者はあり事よまき之家のことし供也りるは
今宵去程の以祝賀のことし

九日涼の庭園山來りきりふ方馬の督民初々のり

しも陪遊せりふ以巻の鴨四羽あり而郷を語り
菊干控泊るる奥方孝也尺智ふ河原草人鳥中蔵
とあり

十日去りし九日涼來のりり高村一庵主一人
時服を賜ふ

十一日三郎山

傳信院殿三層廊下田來女西氏教代者以
十二日寺合平井子初之園克寛の姓但小幡

次郎也直道大久保^三乃於定恒物倉善太郎
俊光宗田藤人清峯一^大得虫次郎基朝^朝宗田川
席平郎乞能西城少姓組三枝傳我守長村越
只次郎成高書院為水聖要人虫一加^爪右京
政方高田吉善利長曾根孫^三國^少幡帶刀
西直菜河吉治^右少郎^左元則西城書院為細井
依次右衛門孫延高升新十郎忠鄉天聖三郎
長田^田康哉市目^田掾^三國^長田^十之^三丞^安新^善

飯室龜三郎昌春綱戶深尺新八有能依聖留五郎
政備少野久内由壽少普請為居仙之丞 竹田
少郎右衛門 大島八十郎忠實作田直平郎
水野岩之丞 小彌戶と^少郎^三西^城少^姓
組番佐格押田豊後守孫能養子菜三郎 一橋
御家目飯田能登守易信養子大次郎 町事^少
少田切少佐守直年子鍋平郎直照少姓大田信清
守好新子善方美好長一橋和用人川口吉左衛門

信譽一子万五郎 西城細戸方井関乙三郎親與
子高之也親經の女出されりおれり細戸方
めし終日淑姫君を塚小つりきり

十四日三福山

文昭院殿書院に以詣あり

十五日月次の賀儀のまじり山内津江守豊武守
合敷三郎方内つ中恒太高き序家信駿府加番
をてかあり調子駿府城代日友甲斐守山範時守

お折を下さき初る起任の暇多梅ふこの日

墓のうへに上りて神田明神の参祀を密に申見

何れ 信ハこの月十五日小右一きき
西新送少ありふ不及り 万日記

十六日西城書院書院大久保三市郎 山細戸方あり

田安郡番院万年 七左衛門頼良子長十郎新様

久し出されり回りに細戸方あり西洲旅より渡道

圖書院員綱孫主計 八中奥書とある

十七日紅葉山

とあり祿二百苞を下し不杉下越前守

十二人使番して以宿の宿あり

井四日東殿山

深徳院殿音牌所小青山下四守忠祐代各一池上

下門寺の

所養小以例林犯後守忠祐代各一池上

孝崇院殿音牌所小赤立屯出雲守程月代各一

杉平犯後守容衆以守一池何一して留う乃不別一

奉皇々祖父犯後守容頌来^年久しく篤実勤務を

事せよと云ふ御志を以て御詞を下されしはあり

由し外少くを以名残利々品名尚家改を念入

つしよの特者と云関

井五日次上守一々大納言見阿

井六日江戸崎大念寺原澄京兼若金戒光昭

一増上守伴所了江戸崎大念寺と云に住職を

命さるは

江戸崎大念寺

亦七日廣の庭園に來りてさしは物員鴨大小等々
指授あり

亦八日使番少く大突巡視ありし水野席之助
忠篤目付とありし少姓山本伊勢守道好法士路と
あり使^番して松平播磨守 一先十一人一層を
下さふ

亦九日三條のからく一使しき以奉の鴨を賜ふ
ふ京去王一廿七日以来のせり多村の番士二人

時後を下さふ

亦此月町奉行隊下子力加敷又左衛門子蔭巳々
英しゆは不奉集畧解二十巻を松平^不せとあり
く進呈せしうハ白銀十枚を賜ふが京大とはた
めし土なり終ハ川東もわくしけありもそん
ありありてみめえとせを御^不し終ハ神無月
ありの御奉もそんやふふんとしふ歌ふみし
と我

十月朔日月の賀儀に於て相承主膳西田義
春親法相正右衛門左衛門延喜子海之丞輝健相承
伊賀守正満子孝之丞出雲相承正政守定剛子
安右衛門定之初見し多う侍つ所亭合中川書事守
引圖部主祝美徳大消夜よりある江戸崎左衛門守
奉款し任儀を謝し奉りこの日浅姫を安置の儀祝
ふ所守の志す如く種まき女使して侍り侍り侍り
侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り

番組殿より菊文代殿の山曾殿とれ承その二人
二日井伊掃部殿の六人へ使番して居を下
三日少普請奉行有田播磨守貞徳目付土屋常丸
直産左衛門
後所院殿重正殿の事しはとてふよる時後重
を賜ふ所吏等物差あり西城小納戸天那孫子
右衛門昌著子子太郎はく父死し家はくその

九人水戸中綱云治保の病危篤のまゝ中綱言
甲斐守政雍の使して尋伺せらる西城すつと曰し
この日少普請より西城中綱を舟に舟の二人
四日水戸中綱云治保の病危篤のまゝ中綱言
大久保豊前守忠温の使して尋伺せらる西城すつと曰し
曰く部より家士を舟に舟の二人
せし御守を舟に舟の二人
舟を下さる

五日水戸中綱云治保の病危篤のまゝ中綱言
治保の病危篤のまゝ中綱言
しつと伺ひせらる

大綱云殿

中綱云治保の病危篤のまゝ中綱言
清茂美濃約十右衛門茂吉村越只治即成者^富井
五内 加三介右京 西井佐次右衛門徳延海見
新に有能押田采之郎 井関^富之助親經西城

そのほいさうは

七日水石黄門の事にすく日光門主辰張中將

齊朝の銀印を中納言備前守使はいさうは

紀伊中納言治實卿より中納言皆出仕あり

まうかふお下中將治紀々のまに收領備前守中將

以使しる音銀五十枚を贈りまうは

八日赤坂山

後水院殿宣麻呂上井大炊頭利厚代奉は越前國

大野城ま上井能登守利貞病ま少政任の乞を

光さ終取領四万石ま終養子中務少輔利義小

治かま上終利貞故伊賀守利寛の病男ま

幼名ま岩之助ま延享三年十月十八日歳終

存終間ま相小列少日ま年十月十八日終養位下小終

能登守少終ま實登終九年二月終養の海ま終對

し是物又賜まう西城よりもまを賜ひ文化四年十月

五日卒まは年六十乃ま著後より大書ま

十三人

（以下は透かし文字）

十日法書より新書よりうはるその十人曾匠胆既
花井玄左衛門定孝高士又齋藤基の活とあり
賄頭後川澄新子既中箱以藤原高所活とあり
十一日法書より因幡守長孝は使してお戸中將
のふし格守回一鶴文代のかさ平子兼子とあり
きり終り
大細之殿より西城は信を我伊賀と馳してその御中
を問ひきりふ

十二日増上寺

博信院殿書麻子牧野備前守中精代者以使者
彦坂三太夫銀芳は火巡視の事余よりは
十五日月夜の雲霞のふりし井中務之補利義家
はきりしを御より入へ多てはつふそ終家士等七人
はきりし終日大奥中より菊文代及袴美の式あり
ふりし
ありし

大綱云殿一解調

乃卷所一一種多正淑姫岸姫一橋治治田ある匡

卿民部以高敷郷松之與死方一解調

大綱云殿より景文代の方一巻物十

所

卷の上岸姫方一解調

卷の上より景文代の方一巻物十一種多正

所一一種多正

大綱云殿淑岸姫治治郷齊匡以高敷郷

松之與方一解調淑岸姫のくくより景文代死方一様

所

乃卷の岸姫のくく一解調岸姫の方より景文代

所一様

所

卷の上淑岸姫のくく一解調岸姫の方より

大綱云殿一馬資の全巻物三

卷の上へ錦二十把一程多色淑筆五娘方へ一程は、
一田神三郎系松之地方へ一程は、景文代の方へ
古田の指う所の方貞孝院尾宗^乗蓮院尾久之馬共
方近幹と娘へ一程は、一田神三郎及松之地方へ
者一程田神北方系蓮院尾久之地方を幹と娘へ
一程は、

中安より彦婦へ巻物不

巻の上より同三菊文代の方より彦婦へ一程彦婦より

菊文代殿へ目し一橋神田田安三郎松之地方より
彦婦

彦婦所へ鮮朝形より又おのしつ祝ふ系極満中より
高久み巻物不を下さるるの白供着して松正初四夜

川免四人鷹少を控端ひし存せ下さる

十六日初立より美林深内友兼老免しとく山寺請

小入の袈裟ありつゝの日

も彦婦の所上の園^園めて供巻の馬を祝ひし

布衣以上の家祝し多て馬の取
廿日必老立花出雲守種員お介の以首行少々
磯より水より水ととめく泉お戸中將治紀の制
中を回るとく控く以側を以たわ守茶行の使く
砂糖漬首粉をくくせう泉の口水より作り河合
孝右馬の是元子孫大郎是告父の歳を足智りの
く流よりく二十人口を下さる
廿日百本下川の住よりく一政存くくく年よりく流

以着の鴨増あり幸合奥田主馬高武田源の指揮
家きくも

廿二日百本下川一宿老后田老女正氏教牧聖徳
忠精より大吹流利孝青山下野守中老権長馬馬
信成より鷹の鷹を編ふ

廿四日赤坂山
孝若良殿雪高少老堀田梅津守正教代若良表
高家磯田武助 子救馬 一の父教仕く子

家修くきの二十元

亦五日去里し廿百以成のきり多村し番士二人以振
せ下さるおた中箱の物中を向き移る以例自派
甲斐守政雅は使しく麻地館をくさくさるる
を向き移る東嶽三郎五山に使しく移るを
くさくさるは十日以上の花園みふくさくさる南於馬
を以例あり火納言殿も同し

亦六日初言義野村右馬の直政を免して小普請

小入り褒銀あり

亦七日振坂中務大輔安量小原を下さる

亦八日少松川のほりり一放鷹をくさくさる

以物負を立石と名付し鷹みく黒鶴原を相控

あり天番小普請より納戸のくさくさるの四人勇利馬

季のき能事はとあり松平政次代り家人が附

銀子を下さる。

亦九日定具を以て大塚弥惣友次病免は免あり

後明院殿宣旨所代奉使の事うけり以産様ありき
建ふ能は新(高)少聖飛騨守武以禱ありと
外州持筒大久保大隅守新番治と外州先子筒治
久松忠次市乞安持筒治と外州^{徳士頭}後田三十郎威鷹
先子筒と外州先子治彼治新母貞徳徳士治と外州
小細尾立宅大古種郷船と外州大古種郷
安科大統まで此より下り新母貞徳久石屋門
と改む小普徳より西塚書院番り入るもの十三人

九日涼の庭園中奉りきふ所鷹を放たれり語多
あ干を指りきあふ

十日水戸中宿治銀心の事とに土井大炊頭利厚
戸田末女正氏教以使しき送領お蔭の事作はる
さふ又銀印中細尾治家々少善山下野中忠徳尾治
中宿高村々に戸田末女正氏教以使しき同日一事
さ信治くはる

十一日某等の以祝とく銀尾のさしをりあ万石

以上の事をかゝ時旅をたゞす
大羽之殿にありし水羽林のきのふ遣一旅お陰に
事任出さるしを謝せし可^らし
しと對面何しありし鶴手代のきのふありし
事をよび制中たつきの使を謝し使由り
紀伊中羽之治宮の
の巻所より米善の使を謝し使由り
し九日米善のしり高村し番士二人の時旅を返す

十二日 坊上寺

持信院殿重府中青山下野と忠務代参^下作事
寺あり井又水^下 老元しと銀あり
十三日 龜有の月より一^下夜會しと米多し
物共鴨山鴨水し日光門主中高家日學伊豫与^下莫施
新伊美門の山姓能者^下因少羽与^下光弘在^下法中^下
羽林の古院番^下深森川下^下能与^下俊世^下増上^下与^下文少^下使
番及^下因主^下院^下 使しと八代^下密相^下と^下照^下と^下紅^下知

とよむ増する方丈のまう能く終老位不福に臣
か羽林を彼まうせき御中なる少善徳の太
番中入家その一人

十四日土野五安中城主計法徳意卒
逆飲三万石の子伊豫守徳尚と徳うむの
徳意のまうの從四位下伊勢守徳俊の養子とあり
實の信濃守徳清六子あり天保四年十二月十日
まのまうえきあり同日五年十二月十八日青陽あり

伊豫守と改免文化の元年の十月廿五日計法と
改免同日二年十月廿日年五十一少く終をまう
勇醫廣井宗意 病免は川^渠條俊利の西段
はと免し松平大和守直恒少室原伊豫守忠國松平
立丸意則右平左膳左衛門高正屋添三郎意直
才川澄理左衛門久教同部左膳家人銀山坂田誠
賜り名事差ありこの日以上の名國中へ騎射
以免何少

十五日月次の賀儀のよしし松平大隅守齊宣川、
修築御役の事はとてしふまゝ時辰を賜ふ久人共
大和守廣孝の先急親のよし久人柳原越中守
那須元二人老福は不島大和守盛運子繁千
賀盛繁初見し多きはつふ使番少なき急政之勘直
信後者目付もくか下福は去る十三日辰
つり高射し番士一人時辰を下さるもあふ騎村
以見あつらうそ能河守合少なき松平左衛門平方

時辰を賜ひ射子能二十四人へ金を下さる西城少老
植村駿河守家長在陣少つら少姓能夏目加記
信行おれし與路とふ駿河守家長の事布衣以上
上直能とゆう(美濃郡)少く宿老列能く牧野
侍あさ忠務これとほふ
十六日松平於方守齊立侍院少任氏高家室系仙遊
從五位下侍院少任し兼持津守と行つたむ
從四位下少叙するその四人松平少任守豊子邦之丞

豊采之胤及与松平信之良克孝之越後与松平
越中守之信子太郎九定永之式於左補小室系伊豫与
中園外少治天位下之叔与与之二十九人同於左後
之良深与松平勘四郎信三山城与木下东五郎
利徳之胤及与酒井與八郎中守之信深与松平
伊豆守信明子長次郎信順之駿河与主之左近与
鑑壽子友之丞温賢之伯耆与松平大室之九郎延茂子
酒之丞輝健之松平与松平伊次与中守子幸之也

中守之左衛門依太田松平与實明子祥之進實云
之伯後与間於右松平与詮之子直之也^詮之孫与松平
之及与与到^子不安^子即与之也^詮之孫与松平日白与
直紹子松平直益之也於少補大番左海口居也
直静之松平与西城之姓松平与松平式於中守与
長門与同姓与守居也根因^長之也^解与中守与
久世政之也^子之也^詮与池田伊三之長休之也
松平求馬也系讓与内匠松平与之也一也伊次与

兵九郎前誤三九郎
奉目前誤本由此札誤說

大久保忠兵衛 元恒朝倉善太郎 俊光宗田
若人 猪俣 宇田川 小七 定能 三枝 真人 守長 水野
要人 中一 島田 玄蕃 利長 曾根 強玄 岡 少幡
第の 西直 菜河 与次 左の 元則 高井 作左 門田 郷
天野 三右 兵衛 康武 中月 権三 岡 長田 十之五
守安 飯室 龜三 郎 昌春 佐野 留五 郎 以備 少野
久 自由 壽多 居仙 之 四 大岡 十一 郎 中 莫 作 田
直五 郎 水野 良之 五 飯田 大次 郎 尚 切

鍋五郎 直照 大田 善方 更 好 長川 口 百五 郎
大久保 三市 郎 百年 長十 郎 頼 穰 亦 塚 少 綱 戸
村 越 只 次 市 成 留 加 之 凡 次 左 細 井 佐 次 方 之
信 延 高 見 新 八 有 能 押 田 菜 三 郎 井 田 留 之 四
親 経 外 少 勇 信 醫 治 江 長 伯 虬 勇 醫 並 之 百 五 左
水 若 左 門 孫 月 之 災 巡 視 の 事 余 之 於 此 田 或 於
中 川 番 を 命 之 日 之 神 橋 改 祭 の 事 人 信 之 之
之 事 於 大 工 限 取 之 不 郎 信 之 之 爲 尚 差 少 又 信

次に昨名降延ありしより此の久以沙汰にせまは
於りししんたつて進くと進くと暗姫名と稱しを
あつた日初香のしつ二家使とて物款し以起居を
何ふ

十七日紅葉山

此堂より山下西宮中禰代衆は日光門を使して
某首の所祝とて一程一病を治りしと云ふ

十八日紅葉山

此堂詣所より詣あり日光門を由り登山ありし
高家戸田備後守氏侍は使して少神孫子枝様を
とてとて少細戸大海忠次郎基朝少姓但おん
さ歌竹田藤左衛門 少細戸の段は免し何し
と帰着の准し少普積小入る少姓但普戸田お物
光弘有能の番士大海正の節基朝の孫の存り
初まありしとて以ておんあつて帰着余をまし
外わかうやうのそつと人撰ありしハ心切届するにま

序方々採りて之を

十九日山普請手堅道有

高木玄清田

宗業

番書と形流この日名世大和守

三人一居を下さる又使番一居を下さる二人

勇能井の

二十日日光門主登山山面ありて峻せし一線

少く風の内心地小くそ能事なり一五石書院

少出た南に南於高花院一可檢測を以覽あり

上直布衣以上地と事か見ふ事申する高花

院一海旅を為ふ田安部用人格三光監物

齊長極老免くそ事合とあり時旅を下さるこの日山人

と定さし庭番馬場善忠一西城彦友司達と

形白山普請より同味獨物方とありその二人

亦一日采首暮の物物候のこと一川梁波利也及能

事一ほく一相平左衛門守高直う家人一物物あり

高家足智ふま示持津守一友科子依下さ世中殿

此勤事ししと毎々ふふこの日再雪ありし家位
しる物就し以て一紀何ふ

廿二日奏在番中三郎江守貞温西城少老とが

此日初見したるはつるまの宮倉朽木主膳

錫島雄之進 少姓中野播磨守

定之進 少姓与次郎直三郎信一子専次郎

小畑戸少左衛門守十郎政直子又五郎 高尾

忠十郎信一子孫十郎 三城小畑戸少左衛門

子邦三郎 幸倉藤巻駒子郎一良養子主馬

赤松式部範善子ハ三郎ハ新龜江一免之其他

当多

廿三日清水邦勤著しつ同し一紀何とありま三人

廿四日赤城山

孝老院殿重康少老植村猪河守家長代巻以地

上寺方丈兼小野老入中石川信信院客相を就

是皆以親とししはつるふ如藤江守泰満末下

一
新後守利徳昭の春希白の卿の養使也為さるは
六於日五城後園司達高藤三右夫利徳具足守り
と水永寺社守り吟味物被^役星野幾三郎益庶
多事精研水永をそく勘定銀路准し十人口せ
下家不齋少を足智高少川清右衛門 出給ふれ
とてて原米と下さる

廿五日以旗守り安藤左和守惟徳子小姓彈正守
惟久佐士既陸藤六右衛門易全子小姓守政守

五城以旗守り渡邊圖書次員綱橋孫主計

守令中西守水元武長子藤十郎之良少普請

但支取坂部以城守廣吉長子三十郎 一之

父死しし家はくその三十五人きふも果嘗の賜物

例のふしし高野遍^坂之院碩学と云きふは

廿六日赤坂山

至心院殿堂牌所ふ以例白須甲斐守政雅代考は
一橋邸家司飯田能登守易信は五城以旗守り守

新編 藩政相以素河内昌水々山普請組支所と
あり申奥少姓上岐信濃守新利ハ新編藩とあり少
少細戸修野与少部政教^教ニ丸留居とあり申々
山普請より少姓^組所入流その七人書度番子家
その七人

廿七日臨時の相會り申水戸中務治保の申候を
御一々留安信光の刃馬二匹太刀是物白銀をた々
留つこれ以對面あり申候より慶平地を賜ふ紀伊

中務治保郷松平播磨守於説松平大學路於志
松平鞠負信於敬福足あり治保申同一家士その
留つてきく見一あり留つてきく、死水と郷を
管さるり持子政地三左衛門直流子源治申直温目
しきく松平治保申完安子茶三申完國西城流士流
橋本五郎申政賢子雅子申政簡一橋守用人上野
治平申忠昌子々右衛門忠忠治保子河各務信之
之確養子銀次申元治ハ父の鞠守を以武技を賞

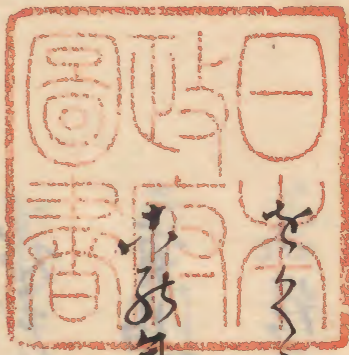
一
一 橋野家日桑京遠江守威倫子之計
八所の譜の事、少くは目付井上其濃守利恭子
取之進利忱善法寺の長女和泉守政良養子
新三政政和西城留守居堀田之佐守山守養子武於
山政以橋野の竹中集人山守子直の節野守子
成知子迄之進成美淑姫也以中人火井之長二郎愚富
養子鐘次郎 留守居番初井中守守山守子
留之進西守少人沢松植左京之長等成子哲之進

日根乃長守國正婿子午之進 山守戸龍川
久保一富子八之進 西城少御戸中野越守
子佐太郎 三枝中務少輔守美子信之進 鷹
近法田山七守國永恭子茂守郎 中守番山守
平六郎是良子七十郎ハ父の執事少あり之し出され
るやのく五番のつち中 乃家裏門切守番の法和田
主^税水惟美子八十志 ハ父の執事少あり之し出
されり大番少入り代友野田村三郎政成子友志

一
亥位のそとに 松平和泉守宗完供一々香銀三十枚

なぐりくさる

小政年 六七有月 兩一滴も下る 氏江家表



Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '日吉香印' and '宗完'.

